ISS・きぼうウィークリーニュース

平成16年10月19日発行　第120号 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター

“今週の国際宇宙ステーション（ISS）”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

☆最初のISS構成要素打上げから2160日経過しました
☆第9次長期滞在クルーのISS滞在は182日経過しました
☆第10次長期滞在クルーのISS滞在は4日経過しました
☆ISS動向

第10次長期滞在クルーのリロイ・チャオとサリザン・シャリポフ両宇宙飛行士および短期訪問クルー（タクシークルー）のユーリ・シャーギン宇宙飛行士を乗せ、10月14日に打ち上げられたソユーズ宇宙船（9S）は、10月16日午後1時16分にISSとドッキングしました。ソユーズ宇宙船の自動ドッキングシステムにトラブルがあったため、ソユーズ・コマンダーであるシャリポフ宇宙飛行士が手動操縦に切り替えてドッキングしました。

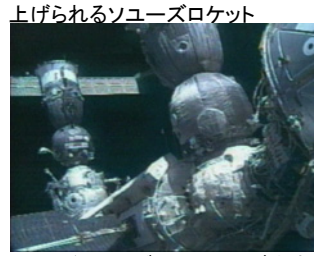
結合部の空気漏れチェックの後、チャオ、シャリポフ、シャーギン宇宙飛行士はISSに入りました。第9次長期滞在クルーのゲナディ・パダルカ、マイケル・フィンク両宇宙飛行士は3人を歓迎しました。

8日間にわたって、第9次長期滞在クルーのふたりは、第10次長期滞在クルーと共同作業を行い、ISSの運用、メンテナンスや科学実験の引き継ぎを行います。その間、シャーギン宇宙飛行士は科学実験を行います。

第10次長期滞在クルーは、およそ6ヶ月間ISSに滞在し、ISSの運用、科学実験を行います。

第10次長期滞在クルーの到着は、第9次長期滞在クルーの6ヶ月におよぶミッションの最終段階を告げるものです。10月24日にパダルカとフィンク両宇宙飛行士は、チャオとシャリポフ両宇宙飛行士に別れを告げ、シャーギン宇宙飛行士と共にソユーズ宇宙船（8S）で地球に帰還する予定です。

バイコヌール宇宙基地から打ち上げられるソユーズロケット


ISSにドッキングしたソユーズ宇宙船（9S）（写真左）

第10次長期滞在クルーのリロイ・チャオ(左)とサリザン・シャリポフ(右)宇宙飛行士

短期訪問クルーのユーリ・シャーギン宇宙飛行士

“スペースシャトル飛行再開（STS-114）に向けて”

☆スペースシャトル・ディスカバリー号の状況

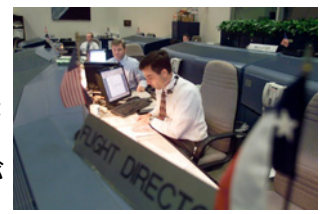
NASAケネディ宇宙センター（KSC）では、スペースシャトル飛行再開のための作業が続けられています。ディスカバリー号のペイロードベイ（貨物室）にはロボットアーム（SRMS）が取り付けられ、試験が続けられています。また、軌道制御システム（OMS）や姿勢制御システム（RCS）のヒータ確認、窒素と酸素漏れの確認、Kuバンド通信システムの確認を含め、多くの点検を行いました。

ペイロードベイに取り付けられたSRMS

☆第1回統合シミュレーションを開始

10月14日、ジョンソン宇宙センター（JSC）でスペースシャトルの飛行再開に向けた統合シミュレーションが始まりました。何十名ものフライト・コントローラ、搭乗クルー、支援技術者、訓練インストラクタ達が、端末及び音声回線を通じて参加しました。

今回はスペースシャトルがISSにドッキングするフェーズについて行い、訓練担当者が様々なトラブルを発生させ、本番さながらのリハーサルを行いました。


統合シミュレーション中のMCCの様子

“トピック”

☆まなびピア愛媛2004開催

10月9日～13日まで、アイテムえひめ及び県民文化センター（愛媛県松山市）にて「まなびピア2004」が開催されました（主催：第16回全国生涯学習フェスティバル実行委員会）。JAXAはこのイベントに出展し、宇宙をテーマにした実験教室と宇宙服の試着撮影などを行いました。

JAXAブース

実験コーナ

宇宙服試着撮影

実験コーナでは、真空ポンプを使った実験や、ミニ落下塔による無重量状態を作り出す実験などを行い、クイズも交えて宇宙環境の不思議を紹介しました。JAXAブースでは終日、小学生から大人まで多くの参加者で賑わいました。

問い合わせ先：宇宙航空研究開発機構　宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター　TEL: 029-868-3074
ホームページ　http://iss.sfo.jaxa.jp/　　Eメール kibo-pao@jaxa.jp
ウイークリーニュースメーリングサービス登録　http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。